巻頭言

お米千食

株式会社奥村組　代表取締役社長　奥村　太加典

皆さん、お米を食べていますか？

朝はパン、昼は麺類を選ぶ人も多いのではないでしょうか。日本人の食生活の多様化がもたらしたお米の消費量低下により、過去には約五〇年に亘り減反政策も行われました。国際紛争勃発により小麦やトウモロコシ価格が高騰しても減少傾向は変わらず、消費を増やす工夫の米粉パン、米粉麺も定着しません。しかし、購入単価で変わりますが、中茶碗一杯のお米代は三〇円程度、どんぶり一杯でも五〇円程度ですので、食品の値上げが続く昨今、実はとても有難い価格です。

私自身は年間三食×三六五日＝一〇九五食の内、一〇〇〇食近くお米を食べるか飲んでいます（笑）。新入社員の頃に二年間だけですが現場寮で生活したことで、朝にはご飯、味噌汁、生卵、漬物を食べることが習慣化し、今もご飯と味噌汁の朝食です。

私がお酒を飲み始めた四十数年前はチューハイが急拡大し、残念ながら美味しい日本酒は少なく高価でした。現在は高品質の美味しい日本酒がとても多くお手頃なのに、若者の日本酒離れは顕著と聞いています。

奥村組創業者の曽祖父が大の日本酒好きであったことや、日本酒発祥の地と言われている奈良で生まれ育ったこともあり、日本酒に対する想いも強く、美味しいお酒に巡り合えた時には堪らなく幸せを感じています。自宅の隣の市に所在する酒造会社にお願いし、当社施工の新しい酒造蔵で当社オリジナルの日本酒を造ってもらい客先にお届けしています。お酒など嗜好品に関する原料は食料自給率にはカウントされませんが、健康に留意しつつ消費することで農業振興に寄与していることになります。

これらのことを次世代に引き継ぐべく息子を鍛えてきましたので、資質や嗜好は見事に承継出来ました。お米をよく食べますし、他のお酒を飲んでいても仕上げに日本酒を飲みたがるほどです。

農業就労者の高齢化は建設業以上に進み離農も多く、農地の管理や耕作を農業生産法人等が引き受ける事例も増加しています。この傾向は今後も続くと考えられますので、如何に担い手が耕作しやすく、生産性が高い農地にしていくかが大きな課題です。また、食料供給困難事態が到来した場合にも効率的に増産や作物転換が可能になるよう、農地の区画拡大や排水改良、かんがい施設の整備など更なる圃場の整備を進めておく必要があります。

現在の自給率はカロリーベースでは僅か三七％であるうえ、微減傾向にあり正に危機的状況です。更には円安が続いていることも、農産物の輸出という点ではプラスになるものの、我が国の食料安全保障にとっては大きなマイナス要因です。国内の農業生産体制を維持し改善していくため、食料・農業・農村基本法が改正された今こそ、「ニッポンフードシフト！」

国民皆が出来ることから始めるべきと考えます。私はこれからもお米を食べて、飲んで、そうすることを周りに勧めていきます。

「小さなことからコツコツと！」